

【研究ノート】

新しい学びを踏まえた小学校での英語学習 —学習活動の重点化とカリキュラムについて—

染谷 藤重・佐藤 裕子*・小川 一美**・中島 貴子***・本田 勝久****

English Language Education in Elementary Schools Based on New Ways of Learning: Learning Activities and Curricula

Fujishige SOMEYA, Yuko SATO*, Kazumi OGAWA**,
Takako NAKASHIMA*** and Katsuhisa HONDA****

Accepted June 21, 2021

抄録：文部科学省は、平成 29（2017）年 3 月に、『小学校学習指導要領』を公示した。外国語教育において、小学校では、中学年で「聞くこと」「話すこと」を中心とした外国語活動、高学年で文字を「読むこと」「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習が実施されている。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大防止に対応する各地区や学校での授業形態や授業内容の見直しに伴い、予測できない社会状況に応じた「新しい学び」が求められている。児童の英語への学びを止めないための工夫と支援のあり方が急務の課題であり、そのために学校教育は何をしなければならないかが問われている。本稿では、課題に対応するためのカリキュラムの見直しと教育実践の工夫を紹介するとともに、新しい時代を生きる児童たちの小学校英語教育を議論する。コロナ禍における英語授業でのペア活動やグループ活動の実践と効果的な指導内容を提案する。

索引語：小学校英語，新しい学び，学習活動の重点化，カリキュラム

Abstract: Japan's Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) published its latest policy, entitled the New Course of Study, in March 2017. The New Course of Study for English Education was enforced in elementary schools in 2020. According to this plan, English language classes should begin in the third grade. The goal of these classes is to nurture the foundation of students' communication skills through a foreign language. For students in the upper elementary grades, English language classes are a regular subject that

* 船橋市教育委員会

** 京都女子大学・文学部

*** 養老町立高田中学校

**** 千葉大学・教育学部

aim to develop their English language skills, including reading and writing. In 2020, temporary school closures prompted discussions on restructuring the curriculum to meet the MEXT guidelines while preventing the spread of the Covid-19 pandemic. We discussed reforming teaching content and style to ensure continuity in children's learning amid the pandemic. This study provides an overview of the current situation of English education during the coronavirus crisis and provides examples of curricula focused on integrating learning activities that elementary schools need. Finally, we propose a framework for new ways of learning English at the elementary school level. We report on the practices of pair and group activities at one elementary school, which are aligned with Covid-19 guidelines, and propose suggestions for mitigating the problems brought on by the coronavirus crisis.

Key Words: English education at elementary schools, new ways of learning, learning activities, curricula

1. はじめに

文部科学省は、「学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について（第2報）」（2020年7月17日）の通知において、学習指導要領に定める内容が効果的に指導できるように、個人でも実施可能な学習活動の一部をICT等を活用して授業以外の場において行うことを提案している。また、学校の授業において行う学習活動を教師と児童生徒及び児童生徒同士の関わり合いが特に重要な学習への動機づけや協働学習、学校でしか実施できない活動などに重点化することを指摘している。特に、小学校外国語活動においては「聞くこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」、外国語科においては、「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の各領域の言語活動については、学校の授業で取り扱うことが基本とされており、その上で、教科書記載のQRコードなどを活用して、学校の授業以外の場で動画や音声を視聴して、内容・概要をとらえたり、わかったことを書いたりして次の授業の活動につなげることとされている。

また文部科学省は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う児童・生徒の「学びの保障」について、基本的な考え方や児童・生徒の学びを支えるための支援策をまとめた『学びの保障』総合対策パッケージ』を公表した。「臨時休業期間における学習支援コンテンツポータルサイト」では、児童の学びを止めないための支援として、様々なコンテンツが紹介されている。さらに、日本英語検定協会「英語情報web」では、「新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた学校教育活動等の実施における『学びの保障』の方向性等について」（文部科学省、2020）にて、動画解説を配信している。

中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（2021年1月26日）では、社会のあり方が劇的に変わる「Society5.0時代」の到来と新型コロナウイルスの感染拡大など先行き不透明な「予測困難な時代」という急激に変化する社会の中で、児童たちが育むべき「新しい学び」が述べられている。また、新学習指導要領の着実な実施のためには、ICTの活用とデジタルを媒体として教育内容の推進が掲げられている。学習者用デジタル教科書を制度化する「学校教育法等の一部を改正する法律」（2019年1月28日）も公布され、必要に応じて学習者用

デジタル教科書を紙の教科書に代えて使用することができるようになったが、学校教育においては今でも紙の教科書が重要な役割を果たしており、ICT 設備やインターネットの接続も十分ではないという声が聞かれている。学習者用デジタル教科書や教材の使用については、プラスとマイナスの両面の効果や影響を検証しながら、段階的にその導入を進めることが重要となるが、その検証も不十分なまま新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国的に学校の臨時休業措置が取られたことにより、学習場面におけるデジタルデバイスの使用や情報化への対応の遅れが表面化した。新型コロナウイルス感染拡大防止策と学校教育活動の両立をどのように図るか、デジタル媒体のコンテンツと情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整えることが急務の課題であり、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ることが必要となる。

本稿では、学校の臨時休業措置の期間に実施された A 市の取り組みと学校再開後の教育実践を紹介する。指導方法や指導体制の工夫や改善により、児童の学びの充実を図るとともに、教員へのサポート体制や研修のあり方について提言する。A 市ではコロナ禍での教員の不安を軽減するため、英語学習教材に関する情報を提供し、コロナ対応についての研修に取り組んだ。新型コロナウイルス感染防止を踏まえた適切な指導方法や教材などの柔軟な使用方法を提案することによって、英語学習における児童の学びを支える教育環境と指導体制の整備を推進した。児童の学習の充実のため、社会の変化にも対応しながら、常により良いものとなるよう改善していく A 市の取り組みを紹介する。

2. 背景

自治体にもよるが、早いところでは 2019 年度 2 月末頃からコロナ感染防止の観点から臨時休業に踏み切った学校があった。2020 年度の年度開始当初に至っては、その臨時休業は全国的に見られる対応となっていた。この期間における小学校の児童たちの学びは主に学習プリントを使った取り組みで、学習内容および学習方法は学習指導要領における資質・能力の 3 つの柱である「知識・技能」の面において対応できているものだったが、「思考・判断・表現」および「主体的に学習に取り組む態度」の側面まで対応しているプリントとは言い難いものであった。休業に踏み切った当初における「学びの保障」の対象は主に国語や算数であり、他の教科への取り組みはほぼ確認できなかった。この休業期間中にコロナ感染防止策が少しずつ明らかになってきた頃から、小学校高学年については外国語に関する動画コンテンツが案内されるようになり、中には教育委員会が主体となって外国語のための動画コンテンツを作成・配信するところもでてきた。自治体により異なった「学びへの保障」の対応が見られた長期間の臨時休業が終了し、5 月下旬頃から先ず小学 6 年生や中学 3 年生を優先的に分散登校させるという形で再開させた学校が多く、その枠を徐々に低学年へと拡大し、6 月中旬頃からようやく一斉登校となった。長期の臨時休業により著しく影響を受けた児童たちの学びを保障する観点から、夏季休業の開始時期を 8 月上旬まで延長したり、夏季休業期間を通常の時期よりも短く設け早々に 2 学期を開始するなどして、各学校は学習の遅れを取り戻すべく授業時間数の確保に努めてきた。同年 10 月現在、感染拡大防止対策をしながら学校は通常の学習指導を行っているが、コロナの

収束は未だ目処が立っておらず、再び感染拡大防止のために学校が臨時休業する可能性を含んでいる。ただし、学校における臨時休業は先述した全国一律で行われるのではなく各自治体の感染状況に応じて行われるものなので、当該地域以外では無論、通常の学習活動が行われている。この状況を相対的に見ると、自治体間あるいは小学校間において児童たちの学ぶ学習内容の量や質に差が生じる。この状況を回避するためにも先で述べた「授業以外の場」において児童たちが学ぶ環境を充実させることは重要であり、同時に、その授業以外の場において「個人でも実施可能な学習活動」を提供することも非常に重要である。小学校の外国語では「外国語によるコミュニケーション」を目標として掲げており、どの学習活動を「個人で実施可能な学習活動」と捉えるのか判断は非常に難しい。確かに教科書にあるQRコード、あるいは出版社のホームページにアクセスすることで英語の目標表現の音声に触れられたり、学習関連の動画を視聴し概要を捉えたりすることは可能であり、それらを「個人で実施可能な学習活動」と見なすことはできるが、その個人の学習活動と授業がうまく連携されるためには、どこにポイントをおいて動画を見るのか、どのように音声を聞くのか、あるいは音声を真似るのか、ということをも「授業内で」個人の学習活動が行えるような状態になるよう「事前指導」が必要となってくる。

高学年に取り組む外国語の土台となる外国語活動（年間35単位時間）についても同じことが言え、「授業外」でも活動に取り組める環境や個人でも取り組める活動内容を充実させる必要がある。しかし、現状として外国語ほど取り巻く環境は充実しておらず、外国語活動で扱われる教材にはQRコードなどがないため、「授業外」で個人が活動に取り組むのは容易ではない。休業期間中においては取り組まれたという報告もほぼなかった。授業外での取り組み環境整備やこれから年間活動時間数の確保することにおいて殊更困難を極め、外国語という教科の素地となっている外国語活動は、臨時休業も想定しながら学校で取り組む活動の1回1回を充実させるカリキュラムを見直すことが現実的である。

多くの小学校における外国語活動及び外国語の授業において、コロナ禍の課題が出現し、小学校現場は、その対応に追われている。そこで、コロナ禍における課題に対応するためのカリキュラムの見直しや教育実践（産出活動など）の工夫が急務とされる。

3. 実践と調査結果

(1) 実践の目的

新型コロナウイルスの影響によって、学校のあり方が問われている。小学校は、新学習指導要領完全実施の年でもある。今、現場ではこれまでの取り組みを生かしたアイデアや時代の流れを受けた新たな試みで学びを深める工夫がなされている。コロナ禍における不安軽減を目指した取り組みとして、児童と教員の立場に視点を当てたA市における実践例を紹介する。

(2) 休業中の実践

1) 児童に向けて動画の配信（A市の取り組み）

2020年2月末から5月末まで学校が休業になり、児童は新学期になっても自分たちの先生に会えない期間が長く続いた。不安軽減と学習意欲を高めるために、各学校に配属される外国語指

導助手 Assistant Language Teacher（以下 ALT）を紹介する動画を作成した。臨場感を高めるために撮影場所は、勤務する学校の教室で行った。時間は、児童が飽きないで集中できる3分以内と設定した。第2筆者の勤務するA市のALTは、小学校中学校合わせて約86名である。小学校低学年・中学年・高学年と中学校と分担を決めて、各自の自己紹介とそれぞれの学年の学習内容からひとつ選択した教材を動画で取り上げた。例えば、小学校低学年では色画用紙を見せながら色の学習、中学年では、好きな食べ物やスポーツについて聞くといったやり取りの紹介を行った。高学年では、将来になりたい職業の紹介。中学校では、社会科の学習と関連した世界国当てクイズなどである。児童は、市内学校限定に配信された86本の動画を繰り返し見ながら、自分たちのALTに親近感を覚えたり、英語でのやり取りに音声で慣れ親しんだりすることができた。

2) 教員に向けてコロナ禍対応への情報発信

各学校では、学校再開に向けて授業の準備を進めていた。コロナ禍で、外国語の授業実践で具体的にどう対応していくのか不安だという問い合わせを多く受けた。

文部科学省からも教育活動再開に向けて児童生徒の学校における学習環境衛生について、以下のような連絡があった。

- ①換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底
- ②多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮
- ③近距離での会話や大声での発声をできるだけ控える

③については、外国語の授業では特に配慮しなければならないことである。そこで、対応案についてできるだけ早く情報発信した。学校再開後の実践で紹介した内容である。

(3) 学校再開後の実践

コロナ禍での対応として以下の教員が授業で行える実践例（小学校）を紹介する。

1) あいさつについて

- ・ALTや担任のあいさつの呼びかけに対して全員ではなく列ごとに返事させる。

ALT: Good morning! → 1列目 児童: Good morning!

ALT: How is the weather? → 2列目 児童: It's sunny!

ALT: What day is it today? → 3列目 児童: It's Monday!

- ・男子3人女子3人など代表児童を指名して返事をしてもらう。また、答える児童が偏らないように出席番号順に指名していく方法もある。

2) 歌について

- ・大声での発声をできるだけ控えるという点に配慮して行う。リスニング重視で歌を聴く活動を行なう。

①キーワードの言葉だけ列ごとに言わせる

例) 歌 Rainbow レインボーソングを聞きながら、列ごとに色の名前を言う。

②ジェスチャーをつけながら歌を聴く

例) Head, Shoulders, Knees and Toes など

3) デモンストレーション・やり取りについて

- ・ALT や担任・JC などのやり取りとして距離をあけた立ち位置に配慮する。
- ・黒板のはしとはし（ほぼ 2 メートル）に立つて行う。
- ・児童同士が発表で前に出てきて行う場合も同じである。

4) アクティビティ／ゲームについて

- ・多くの人が手の届く距離に集まったり、手が触れたり、向き合って声を出し合ったりするような活動は避ける。

例) 自己紹介しながら名刺交換するゲーム

→ 1 人ずつ教室前に出てきて名刺を見せながら自己紹介する。

- ・カード交換ゲームやジャンケンゲーム、一列に並んでの伝言ゲームなどは避ける。
- ・リスニングクイズ：その場で聞かせて考えさせるクイズである。
→ 3 択で答えをえらぶ 指の数で答えを示すなどを行なう。
- ・絵本の読み聞かせ。
- ・見る、考える活動：Missing Game：黒板に貼ってあるカードから消えたのは何かを考える。
- ・聞くゲーム：Simon Says Game：動詞を体で覚える。
(その場で指示できるもの) Simon says, jump! Spin! Smile! Swim!

Play soccer! Touch your head! Clap your hands!

5) 映像教材の活用について

『NHK プレキソ英語 DVD』は、そのまま使える小学校英語教材である。

5 年生: Hello, friends. How do you spell your name? My name is ～. の単元の部分では、『NHK プレキソ英語 DVD』: 第 1 回、第 10 回、第 22 回を使用することができる。また、6 年生 This is me. I like ～. My birthday is ～. I'm from ～. の単元の部分では、『NHK プレキソ英語 DVD』: 第 11 回、第 23 回、第 36 回の部分を使用可能である。

- ・10 分で見られる動画である、『NHK 基礎英語 0 (世界英語ミッション)』では、How do you spell your name? My name is ～. の単元を学習することができる。具体例として、「2020 第 1 回: ケリーを探せ」及び「2020 第 5 回: カッコいいニックネームをつけよ」の部分を用いることができる。

(4) 夏休み中の市の取り組み

ALT は 2020 年 7 月 11 日 (土) ～ 8 月 31 日 (月) まで夏休みに入った。そのために、その後は担任 1 人で外国語授業を進める必要性に迫られた。実際、8 月 7 日 (金) まで授業を実施した。2 週間の夏休みの後、8 月 24 日 (月) から授業を開始することとなった。

そこで、問題となってくるのが、担任へのサポートである。その取り組みを下記に示す。

1) ALT による読み聞かせ用動画の作成

- ・はらぺこあお虫 Very Hungry Caterpillar
- ・ブラウンベア Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?

2) 担任への夏休み用プラン配布

夏休みに 1 人で授業を進める担任のために、プランを作成して配布した。表 1 は、第 5 学年における外国語の夏休みの指導計画の例である。また、付録 3 に No.4 Unit 3 ② (New Horizon Elementary, 5) の具体的な指導案を示す。

表 1 第 5 学年外国語 7・8 月の指導計画例

No.	単元	活動内容	備考
1	復習	プレキソ英語 DVD 視聴 アルファベット練習	魔法のワークシート (東京書籍, 2020)
2	復習	NHK 基礎英語 0 視聴 アルファベット練習	魔法のワークシート (東京書籍, 2020)
3	UNIT 3 ①	What do you want to study? 学びたい教科やなりたい職業について のやり取りのおおよその内容を理解する。	指導者用デジタルブック
4	UNIT 3 ②	学びたい教科やなりたい職業について のやり取りのおおよその内容を理解する。	指導者用デジタルブック
5	UNIT 3 ③	学びたい教科やなりたい職業について たずね合う。	指導者用デジタルブック
6	UNIT 3 ④	学びたい教科やなりたい職業について たずね合う。	指導者用デジタルブック
7	UNIT 3 ⑤	「夢に近づく時間割」を作って、学びたい教科や職業について紹介する。	指導者用デジタルブック

(5) コロナ禍での教員の不安に関する調査と結果

2020 年 4 月に、市内英語主任 54 名に向けて「外国語教科化に当たり授業を指導する上で不安に思うこと」を調査した。その結果、「担任 1 人での指導」34 名、「評価」32 名、「自身の英語力」29 名、「発音指導」28 名、「英語指導法」25 名、「ALT とのチームティーチング」24 名、「指導案作成」21 名と多くに不安を抱いていることがわかった。

その理由として、教科化前ということで、教員にとっては指導内容や指導体制など全てに不安を抱いていたと考えられる。

ところが、授業開始後の 8 月の調査では、「コロナ禍での不安」を挙げる教員が増加した（付録 1 参照）。特に、授業については「具体的なコロナ対応のアクティビティの実践例」を望む声が多かった。「外国語教科化になり、不安はどうなったか」という質問では、54 名中 37 名の教員の不安が増加したと答える中で、17 名は不安が軽減したと答えていた。なぜそう考えるのか理由に着目したところ、その理由の一つに「コロナウィルス感染対応への情報で安心した。」と答えていたことが分かった（付録 2 参照）。

(6) 教員の不安軽減に焦点を当てた対応案

1) 情報提供（事例『Let's Try!』のアクティビティ内容への対応案）

小学校 3・4 年生の教材『Let's Try! 1』『Let's Try! 2』では、コロナ禍では文部科学省の通達「近距離での会話や大声での発声をできるだけ控える」から考えると実施が厳しいアクティビティ内容がある。コロナ禍でも教員が安心してできるアクティビティ集を作成した。以下作成事例

表2 3年生 UNIT 2 ‘How are you?’ ごきげんいかが？

単元	時間	活動 (可否)	問題点	対応策
Unit 2 ‘How are you?’ ごきげん いかが？	9 時間	どんな様子 かをたずね て友だちの 名前を書こ う。(可否→ ×)	児童同士で、様子を尋ねた り、ジェスチャーを付けて 答えたりする活動となっ ている。相手を見つけるため 教室を歩き回ったり、お互 いの顔を近づけたりすると 密になる活動となってい く。	全員一斉の活動ではなく、 代表児童（または、列ごと） に前に来てもらい「お腹が すいた」などのジェスチャ ーをしてもらい、他の児童 に当ててもらおうジェスチャ ーゲームが考えられる。

のひとつである。表2には、コロナ禍での活動（可否）・問題点・対応策を明記している。

2) コロナ禍に対応した研修の実施

集団での研修が難しい中、コロナ禍に配慮した研修を実施した。内容としては、外国語教科化に当たり教員が1番不安とする「評価のための研修」と「デジタル教材活用研修」に関するものである。配慮した点としては、「①時間を短くする→昨年度は1日研修、今年は半日で行なう」「②人数を少なくする→参加人数を半分にして2回に分けて実施した」「③座席の工夫→距離を取っての座席を配置した」「④研修内容→グループ討議などのワークショップは実施しない。個別での発表を中心にした」ということである。

上記の内容の実施の結果として、コロナ禍の状況で教員が1番不安に思うことを調査し、不安を明確にしたことではすばやい対応が実施できたと考える。(5)における調査を分析した結果、具体的な実践例や資料を配信したり、教員が不安とする研修を実施したりすることで、教員の不安が軽減したことがわかった。さらに、コロナ禍での指導やアクティビティ・評価など優先順位をつけて研修内容を実践することは大切である。コロナ禍の状況では、個人個人ではなく教員全体で不安や課題を共有し進めて行くことが、不安軽減につながると言える。

結論として、コロナ禍の時代では外国語の授業に限らずペアワーク・グループ学習が難しくなっている。対話的な学習を行いにくい今だからこそ、授業では自分で考える力を鍛えたいと考える。たとえば、「道案内」の単位ではいきなり方向を示すことばを教えるのではなく、「自分が案内される時、どういう言い方だったらわかりやすいか」の視点で、どんなことばを使ったらいいか、伝えるために必要なことは何かなど、教員が意識して児童が考えさせる場面を設定することが今後求められると言える。

4. まとめ

2020年度からの中学年での外国語活動、高学年での教科学習に向けて、各地域や学校では実施のための様々な準備を進めてきた。しかしながらこのコロナ禍において、インプットを与え

るだけで、ペアワークもグループワークも予定通りの進行ができず、すぐにアウトプットをするという状況の中で、学習に対する遅れや児童のやる気の減退が見られるという声が聞かれる。また、授業時間数（中学年では 35 時間程度、高学年では 70 時間程度）の確保が難しい場合には、主な教材となる教科書のどこをどのように削減するのか、活動での制限をどうするのか、などの課題が見られる。教師や友だちとの学びや足場かけ（scaffolding）に依存しながら、英語への学びを進めるためには、教員と児童及び児童間での学びの共有と多面的な支援体制の確立が急務である。

教育課程の編成主体については、『小学校学習指導要領』第 1 章総則第 1 の 1 において「各学校においては、適切な教育課程を編成する」と示している。また、同第 1 章総則第 1 の 2 では、学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において「創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する」ことが示されており、教育課程編成における学校の主体性を発揮する必要性が強調されている。さらに、第 1 章総則第 1 の 4 に示すカリキュラム・マネジメントの一環として、こうした総則の全体像も含めて、教育課程に関する国や教育委員会の基準を踏まえ、自校の教育課程の編成、実施、評価及び改善に関する課題がどこにあるのかを明確にして教職員間で共有し改善を行うことにより学校教育の質の向上を図り、カリキュラム・マネジメントの充実に努めることが求められている。

スマート社会（Society5.0）と新型コロナウイルス感染拡大防止というかつてなく大きな社会の変化を見据え、学校教育もその役割と意義を再認識することが求められている。新学習指導要領に掲げられている「主体的・対話的で深い学び」という観点からも、児童生徒の学びを保障し生きる力を育むことが各学校の責務となる。新型コロナウイルス感染拡大防止をはじめとする社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、本稿では、新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた適切な指導方法や教材などの柔軟な使用方法を提案した A 市の取り組みを紹介した。特にコロナ禍でのメディア媒体の活用と小学校英語に必要な教材内容を精査することによって、英語で多様なコミュニケーションができる必要不可欠なものや、学習が容易で様々なコミュニケーションの場面において応用が可能であると考えられる表現を中心に、その指導方法や指導内容を提案した。A 市ではこれらの教材内容の特徴についても考察し、小学生にとってどのような教材内容や配列が適当であるのかについても議論した。各学校や地域の特性を活かしたカリキュラム・マネジメントに対応し、新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現しようとする A 市の取り組みが、新しい学びを踏まえた小学校英語の学習活動の重点化とカリキュラム編成で悩まれている方々への参考になれば幸いである。

謝辞

本稿は、令和 2 年度日本教育大学協会研究集会（Web 上での開催）での発表資料に加筆修正したものである。本研究に貴重な情報を提供して下さった皆さま及びコロナ禍の中で本調査にご協力頂いた皆さまに謝意を表します。

付記

1 章：本田、2 章：中島・本田、3 章：染谷・佐藤・小川、4 章：本田が執筆を行った。

参考文献

- アレン玉井光江・阿野幸一・濱中紀子（他）（2020）.『NEW HORIZON Elementary English Course 5』東京書籍.
- アレン玉井光江・阿野幸一・濱中紀子（他）（2020）.『NEW HORIZON Elementary English Course 6』東京書籍.
- Carle, E. (2011). *The Very Hungry Caterpillar*. <https://www.puffin.com/web-browser> (2021 年 7 月 19 日検索)
- 中央教育審議会（2021）.「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm (2021 年 7 月 19 日検索)
- 本田勝久・星加真実・田所貴大（2018）.「小学校英語デジタル新教材 *We Can!* の語彙分析」日本児童英語教育学会『研究紀要』第 37 号, 169–185.
- 本田勝久・星加真実・田所貴大・染谷藤重（2019）.「東アジア諸国における小学校英語の教科書分析」日本児童英語教育学会『研究紀要』第 38 号, 77–91.
- NHK エデュケーショナル（2017）.『NHK プレキソ英語そのまま使える小学校英語教材』NHK エデュケーショナル.
- NHK for School（2020）.『NHK 基礎英語 0 世界英語ミッション』<https://www.nhk.or.jp/school/eigo/mission/> (2021 年 7 月 19 日検索)
- 日本英語検定協会「英語情報 web」（2020）.「学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等についてのポイント」<https://eigojoho.eiken.or.jp/blog/20200617-01> (2021 年 7 月 19 日検索)
- Martin, B. (2011). *Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?* New York, NY: Henry Holt and Co.
- 文部科学省（2017）.『小学校学習指導要領』http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/icsFiles/afieldfile/2018/09/05/1384661_4_3_2.pdf
- 文部科学省（2017a）.『小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編』http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_011.pdf (2021 年 7 月 19 日検索)
- 文部科学省（2017b）.『Let's Try! 1』東京書籍.
- 文部科学省（2017c）.『Let's Try! 2』東京書籍.
- 文部科学省（2018）.『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編』開隆堂.
- 文部科学省（2019）.「学校教育法等の一部を改正する法律」https://www.mext.go.jp/b_menu/

houan/kakutei/detail/1415449.htm (2021 年 7 月 19 日検索)

文部科学省(2020).「学校の授業における学習活動の重点化に係る留意事項等について(第2報)」

https://www.mext.go.jp/content/20200717-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf

文部科学省 (2020).「臨時休業期間における学習支援コンテンツポータルサイト (子どもの学び応援サイト)」https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm(2021 年 7 月 19 日検索)

東京書籍 (2020).『魔法のアルファベット練習ノート 5・6』東京：東京書籍.

Appendix

付録1 今後の研修としてどんな内容を希望するか

アンケート実施 2020 年 8 月 対象市内英語担当教諭 54 人	
内容	
・評価について	評価方法
・授業についての指導法 (効果的な進め方)	
スモールトーク 文字指導 指導案作成	外国語指導法
クラスルームイングリッシュ 授業で使えるアイデア	
英語が苦手な児童への指導	
・担任自身の英語力強化	英語運用能力
英語を話せる機会	
・コロナウィルス感染拡大防止への対応	コロナ対応
コロナ対応のアクティビティ ゲーム	
・研修体制	研修体制
低学年向き 英語が苦手な教員への研修	
・情報収集	情報
小学校中学校連携 実践例 他市の実践	
・WEB 研修について	デジタル操作
デジタル取り扱い	

付録2 外国語教科化に当たり、担任の授業への不安はどうなったか

★4月より不安が減少した そう考える理由 17人	
内容	
・デジタル教材の活用の仕方がわかったので、1人でも授業が進められる。	デジタル教材の活用
・デジタル教材の充実	
・研修を通して不安が減った。 評価の仕方がわかった。	研修
・研修で評価やデジタル活用が理解できた。	
・英語指導コーディネーターが支えてくれる。	
・ALTのサポートがある。	指導体制
・英語専科がいる。	
・コロナウィルス感染対応への情報で安心した。	コロナ対応
・授業の進め方が慣れてきた。	授業経験
★4月より不安が増加した そう考える理由 37人	
内容	
・評価について。	評価方法
・児童が理解しているか不安。	教科書
・教科書が難しい。	
・授業進行に不安がある。	指導方法
・毎日手探り 担任1人での指導。	指導体制
・コロナウィルス感染への対応。	コロナ対応
・コロナ対応のアクティビティ。	
・デジタル取り扱いが難しい。	デジタル扱い

付録3 5 学年外国語活動案 No.4 UNIT 3 ② ‘What do you want to study?’

目標：学びたい教科やなりた職業についてのやり取りのおおよその内容を理解する。

★指導者用デジタルブック使用

時間	過程	学習活動	備考
10 分 導入	Greeting Small Talk Let's Chant	担任から子どもたちに声がけする。 How are you? (調子はどうですか?) What day is it today? (何曜日ですか?) How's the weather? (今日の天気は?) What time is it now? (今何時ですか?) What do you want to study? (何の勉強をしたいですか)	指導者用デジタルブック
20 分 活動	Word Link Starting Out Let's Watch and Think	★今日のターゲットワードの復習をする。 天気・曜日 p. 5, p. 15 気分・教科 p. 4, p. 24 英語を聞いて場面の順に番号を書こう D E ① 答えを確認する。 ② もういちど聞かせる。その時にキーワードの言葉の時に手をあげさせる。キーワードの言葉を確認する。場面 E は 2 つ。 場面 D・・・school 場面 E・・・on Monday recorder 次の小学生の学びたい教科となりたい職業を線で結ぼう 名前・国名・なりた職業をしっかり聞くように伝える。 答え合わせをする。	子どもたちと一緒に発音するピクチャー・ディクショナリー 教科書 27 ページ 指導者用デジタルブック
10 分 文字指導	Writing Time	Sounds and Letters 90 ページ ちがいに注意しながら文字を書かせる形の似ている大文字 2 つ・小文字 2 つ練習。	教科書ワークシート
3 分	Reflection	今日の授業の振り返りをする。	
2 分	Closing	That's all for today. 英語でジャンケン。	

